

基準 9. 教育研究環境

9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

(1) 9-1の事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

本学の中心校地は、京都市の中京区西ノ京壺ノ内町に位置する。京都市内には、数多くの大学があるが中京区にキャンパスを有する大学は、本学を置いて他にない。京都駅から円町駅までJRで10分、円町駅から徒歩8分である。なお、これ以外に、右京区の京北五本松町（中心校地からバスで50分）にグラウンド等を有している。本学の校地・校舎面積と大学設置基準上必要な面積は表9-1-1の通りである。また、校舎の概要は表9-1-2、運動場の概要は表9-1-3の通りである。

表9-1-1 校地・校舎面積 大学設置基準との比較

校地面積	設置基準校地面積	校舎面積	設置基準校舎面積
55,359 m ²	21,000 m ²	24,844 m ²	10,544 m ²

表9-1-2 校舎等概要

所在	建物名称	延べ床面積	地上（階）	地下（階）	主要施設
中心校地	惺々館	2,682.5 m ²	4		講義室
中心校地	返照館	2,067.25 m ²	3		国際禅学研究所・大学院講義室・自習室
中心校地	蔭涼館	715.5 m ²	2		事務室・講義室・茶室
中心校地	裁松館	5,138.05 m ²	7	1	学長室・事務室・教員研究室・共同研究室
中心校地	無文館	930.18 m ²	2		坐禅堂
中心校地	真人館	4,115.98 m ²	3	1	体育館・学生食堂・売店
中心校地	無聖館	6,706.56 m ²	5	2	図書館・歴史博物館・情報システムセンター・心理カウンセリングセンター
中心校地	自適館	2,519.2 m ²	3	1	学生ホール・購買部・講義室
中心校地	教堂	727.57 m ²	2		教堂ホール・宗教部
中心校地	トレーニングルーム	75.6 m ²	1		トレーニングルーム

中心校地	弓道場	120.96 m ²	1		弓道場
中心校地	対雲館	1,631.7 m ²	3		演習室
中心校地	直心館	1,744.17 m ²	3		介護実習室・調理実習室・書道実習室
中心校地	浩然館	449.8 m ²	4		国際交流室・交換留学生室・研究室
中心校地	学生会館	709.24 m ²	3		クラブボックス
京北五本松町	クラブハウス	314.24 m ²	2		休憩室・更衣室
京北五本松町	緑水軒	1,175.58 m ²	2		研究室
旧土居町	国際禅学研究所分室	130.83 m ²	2		研究室
梅津間町	養心館	443.04 m ²	2		学生寮
ハツ口町	第2養心館	146.94 m ² 54.69 m ²	2 1		学生寮

表 9-1-3 運動場の概要

所在	区分	面積	備考
中心校地	小グラウンド	3,632 m ²	
中心校地	テニスコート	1,155 m ²	2面
京北五本松町	グラウンド	30,266 m ²	

主要施設の概要は以下の通りである。

○図書館

本学図書館の現在の蔵書冊数は236,963冊、雑誌は5,342種類、AV資料は12,262タイトルを所蔵している。また、臨済宗・黄檗宗の高僧の墨蹟107点や古文書（俣賀家文書22点他）を貴重図書として所蔵している。閲覧室は、サービススペースとして閲覧スペース、視聴覚スペース、PCスペース等からなり、その合計面積は1,168 m²である。また、管理スペースとして書庫、事務スペース等があり、その合計面積は1,610 m²である。閲覧席数は、学生の1割超に当たる275席である。図書館では、2003年度より図書館システム（LVZ）を導入している。これにより貸出・返却の迅速かつ適正な処理及び2種類の蔵書検索サービスが可能になっている。「hops」では、図書館の蔵書の検索が可能であり、「a2z」は、図書館の蔵書検索及び他館との横断検索が可能となっている。

なお、本学の図書館の特徴のひとつとして、障害学生に配慮した施設がある。具体

的には、車椅子利用者への対応として、車椅子でアクセス可能なカウンター構造、車椅子用の閲覧机を各階に配置、段差のないフラットなフロア、エレベータの設置、人が立っていても車椅子が通行できるように書架の間隔を広くとっている等である。また、視覚障害者への対応として、専用のコンピュータシステムを置いたコーナー（プレイル・コーナー）の設置、専用ソフト「95Reader（XP Reader）」、「ホームページ・リーダー」、「点字編集システム」、「よみとも」等の搭載、拡大読書器の設置等である。

○歴史博物館

本学の歴史博物館は、第1展示室、第2展示室、学芸員室・展示準備室、収蔵庫、特別収蔵庫等の施設からなる。第1展示室は常設展示室であり、本学の収蔵品や寄託品のうち、考古学、民俗学、歴史学、美術・禅文化にかかわる資料を展観する。第2展示室は、歴史博物館が独自に企画・立案したユニークな展覧会を開催する特別展示室である。本学の歴史博物館は、博物館学芸員資格課程を履修する学生の「博物館実習」の場としても大いに活用されている。

○体育施設

中心校地には、テニスコート2面、弓道場、小グラウンド、体育館（1階：主に武道に利用されるサブアリーナ、2階：新体操や球技に利用されるメインアリーナ）、トレーニング・ルーム等の体育施設が設けられている。京北校地には、総合グラウンド（ラグビー・硬式野球）が設置されている。

○情報サービス施設

本学の情報サービスについては、情報システムセンターが管理運営を行っている。現在のクライアントマシンの総数は439台で、その内訳は、研究用86台、教育用244台、事務用109台である。教育用クライアントマシン1台における学生数は10.89人で、学生のアカウント取得者比率は、98.53%である。授業や自習に利用されるパソコン教室は、定員42名の教室が2室、定員48名のLL教室としても使用可能な教室が1室設置されている。

○研究施設

本学の研究施設としては、国際禅学研究所が積極的な研究活動を実施している。なお、2002年度から2006年度の間には、国際禅学研究機構（国際禅学研究所・禅的教育研究所）による「国際的禅学研究の推進」「禅的教育手法の研究」をテーマとした教育研究活動が学術フロンティア推進事業に採択された。これに関連する研究施設は、京都市右京区京北五本松町に新築された。施設の概要は、事務室、国際禅学研究所研究室・資料室、禅的教育研究所研究室、中会議室、小会議室、交流フロア、厨房、食堂、個人研究室、禅堂等である。

○介護関連施設

本学の社会福祉学部社会福祉学科には、介護福祉士養成課程が置かれており、介護福祉士の養成に力を注いでいる。この介護福祉士養成課程の施設は、主に直心館に設置されている。その主な施設は、介護実習室、入浴実習室、和室、調理実習室、家政実習室等である。これらの施設は、通常授業はもとより、日本介護福祉士養成施設協会の介護技術講習会や学外者の研修会・見学会等にも利用されている。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

施設設備の維持運営は、総務部庶務管理課がその責任を担っている。庶務管理課は、教員や各課と連携して改修や改善の要望に基づき施設の維持管理に努めている。また、電気設備、給排水・衛生設備、空調設備、消防設備、昇降機その他等については、法定検査・点検、補修整備を実施している。防火設備については、消防署の立ち入り検査を受けその結果に基づき改善等の計画を実施し、施設設備の維持管理に努めている。

(2) 9-1の自己評価

本学の中心キャンパスは、京都市の中京区に位置する。これは日本の歴史・文化の中心に位置することでもあり、教育研究活動のための環境としては、極めて良好なものである。また、本学では、大学設置基準を上回る校地・校舎を整備し、その施設設備は、教育課程の運営に十分に活用されている。

図書館は、その名称を「花園大学情報センター(図書館)」としているように、学術情報の収集・閲覧にとどまらず、AVコーナーやパソコンコーナーを設置して、内容・規模とも充実した施設として活用されている。

歴史博物館は、本学が標榜する「開かれた大学」の中核施設として、本学の調査・研究によって蓄積された資料を公開し、大学教育及び市民の生涯学習の場として活用されている。

施設設備の維持管理は、日常自主点検、法定点検を必要に応じて実施し、その運用には万全を期している。

(3) 9-1の改善・向上方策(将来計画)

学科改組計画に関連して、新校舎建設計画が推進されている。新校舎は、鉄筋コンクリート4階建、延べ床面積4,219㎡の計画で、新学科関連の施設以外に、パソコン教室や小・中講義室、演習室の増設が計画されている。新校舎は、2009年3月に完成予定である。

9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 9-2の事実の説明(現状)

9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

本学は、1977年に現在の京都市中京区西ノ京壺ノ内町のキャンパスに総合移転した。現在ある校舎はすべてこの年以降に建設したものである。したがって、一番古い校舎でも移転時に建設したものの(2棟)であり、その他は1983年から1998年の間に建設されており、建物自体が比較的新しいものであるため、バリアフリー、耐震強度、アスベスト問題等安全性、快適性が確保された教育研究環境を整えている。

9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

キャンパスには、附属施設（図書館・歴史博物館等）のほか、学生会館、学生ホール、学生食堂、売店、購買部等のキャンパスライフに欠かすことのできない施設が整備され、快適な教育研究環境として活用されている。また、本学の建学の精神である「臨済禅による禅的人間教育」を具現化する施設として、教堂や坐禅堂が整備されている。教堂は、ミッション系大学におけるチャペルのような施設で、宗教行事を中心に使用しているが、講演会や映画会あるいは学生の瞑想空間としても活用されている。教堂は、100名収容の教堂ホールを中心に、事務室、会議室、談話室、和室等が整備されている。坐禅堂は、一度に200名が坐禅することの出来る施設で、他の大学には例を見ない施設である。これらの施設は、具体的な教育の場として、また授業以外の課外活動の場として有効に活用されている。

（２） 9－2の自己評価

本学のキャンパスでは、駐輪指導職員の配置、建物別管理者の配置、館内清掃の徹底等、全体として清潔で快適なコミュニティとしての教育研究環境を整えている。また、本学独自の施設である教堂は、お釈迦様の誕生日をお祝いする「花まつり」やお釈迦様がお悟りを開かれた日を記念する「成道会」（成人式の集い）、教堂アワーと題する講演会等で活用されている。

（３） 9－2の改善・向上方策（将来計画）

新校舎建設計画に関連して、新たな教育環境の整備が図られることとなっている。

〔基準9の自己評価〕

教育研究活動を推進するために必要な校地・校舎、施設設備が適切に整備され、活用されている。また、本学の校舎は、建物自体が比較的新しく、安全性、快適性が確保された教育研究環境を整えている。

〔基準9の改善・向上の方策（将来計画）〕

学科改組計画に関連して、新校舎建設計画が進められている。この新校舎は、学科改組に係る新学科関係の施設のほか、パソコン教室や演習室等が増設され教育研究活動の充実のために活用される予定である。